

平成24年1月10日（火）

『節目！？』

今朝から私が理事長を務める
NPOおのみち寺子屋の監査を行いました。

夕方からは、
しまなみ商工会の互礼会もありますが、
実は今週は木曜日を除いて、
新年会ラッシュです！？

決算監査もそうですが、
忘年会や新年会、新年互礼会は、
一年365日の中で大きな節目になります。

竹は節目があるから風雨に耐える強さがある、
と言われますが、

節目には成長点があり、
この成長点が伸びることによって、
高く高く伸びていきます。

つまり、節目には成長の素が隠されている
ということですね。

監査や忘年会で
しっかりと事業検証や振り返りを行い、
新たな事業計画を立てていく。

詳細でより具体的な計画を立てることが、
次へのステップにつながります。

計画を覗いただけで、
どれだけそのことをイメージできるかで、
その事業の成否が決まってくると言っても
過言ではないのだと思います。

単なる忘年会、儀礼の新年会にせず、
意図を持った行動にしたいものです。

平成24年1月16日（月）

『地域の誇り！？』

昨日、区長を務めている向東町肥浜地区の
とんど祭りとお互礼会を開催しました。

とんど祭りは
金曜日の午後から真竹を切り出し、
土曜日は朝から子どもたちも一緒に、
わらのはかま取りをしたり、
色紙で装飾をしたりしました。

昨日の15時に点火したのですが、
その前に、
とんどを台車に乗せて地区内を巡幸します。
子どもたちが梵天を持って大勢付き歩きますが、
独特の風習かもしれません。

以前、子どもたちは
当日だけの参加だったのですが、
近年、一緒に歩く子どもたちが少なくなったので、
昨年、制作段階から携わってもらうようにして、
とんどに思い入れを持ってもらうようにしました。

自分たちが関わったとんどに点火される際に
感動を覚えて欲しいという想いもあります。

今年は20名近くの小学生が
制作に関わってくれて、
巡幸の際には中学生も一緒に歩いてくれました。

装飾では、異年齢の子どもたちが
試行錯誤を繰り返しながら、
色紙でいろんな飾りを作ってくれました。
支え縄をお年寄りと一緒に編み込む
子どもの姿もありました。

地域への愛着が地域の誇りにつながります。
子どもたちが少なくなっていく中で、
郷土を誇りに思う子どもたちを
一人でも多く育てたいと思います。

日々の活動をブログで紹介しています。

携帯電話のインターネットからもご覧いただけますので、是非、どうぞ！！

<http://blog.k-kakimoto.com/>

【柿本和彦後援会】

〒722-0062 尾道市向東町3301-1

Tel・Fax兼用 (0848) 41-9315 Fax (0848) 44-6829

メールアドレス: info@k-kakimoto.com

ホームページURL: <http://k-kakimoto.com/>ブログURL: <http://blog.k-kakimoto.com/>

ご意見等がございましたら、お気軽にお寄せください！



愛と志で誇りある未来を創造しよう！

かきもと かすひこ

柿本和彦後援会 会報 VOL.04

編集：柿本和彦後援会

平成24年 4月20日発行

2年目の活動に向けて！

後援会の役員が新体制になりました。

より機動性を持った、より顔の見える組織づくり、また、後援会活動のあり方も見直しを
を行って参りたいと思いますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

足腰を鍛える！？

スポーツにおいて、足腰を鍛えることは上達の基本と言われる。

しかし、そのことはスポーツに限らず、すべてに言えるように思います。

何事も基礎基本がしっかりしていないと、軸がブレ、どこかに無理が生じます。

一年間、定例会や臨時会、また、常任委員会や予算・決算特別委員会などを通じて、
基礎知識の習得の大切さを再認識しました。

地方自治法といった法律にはじまり、自治体の財政や決算の仕組みなどの知識、

また、行政のそれぞれの部署の分掌や主要施策などを更に学ぶと共に

過去の会議録も時間を創って読みこなして参りたいと思います。

地域コミュニティの復活と志縁コミュニティ

今、地域コミュニティの復活、あるいは再生が言われています。

まちづくりのさまざまな施策には、こうした考えが基本にあるように思います。

自分たちのまちは自分たちで創る！

地域主権の流れの中で、地域コミュニティの復活は重要な課題です。

協働のまちづくりやコミュニティスクールに代表される自立したまちづくりは、

地域コミュニティの役割が大変大きなウェイトを占めているように思います。

しかし、コミュニティを生きたものにするには、《つながり》《共同性》《地域性》
といった要因が必要になってくると言われている中で、

現代社会は、他との関わりを好まず、生活スタイルの多様化で共同性が排除され、

また、情報通信機器の発達により地域性が薄れ、

地域コミュニティを育むことが容易でない社会になりました。

そこで、考えなければならないのが、“志縁”によるコミュニティとの融合です。

ひとつの“テーマ（目的）によるつながり”が形成された“志縁コミュニティ”を
これからのまちづくりでは有効に活用していくことが必要だと考えます。

さまざまな趣味のサークルやボランティア団体、NPOなどをつなぎ、

Win-Winの関係で、誇りある未来を創造したいと思います。

柿本和彦の活動報告 《2012(平成24)年1月～3月》

視察報告



◆ 総務委員会で、1月25日(水)、

尾道市の新市建設計画に係る消防庁舎を視察しました。瀬戸田分署、因島消防署、因北出張所、向島分署の現況等を視察し、建設予定地や建設候補地も車窓から確認しました。どの施設も老朽化が進んでおり、早期の建設が必要になってくるように思いました。また、いずれの施設もコストセンターですが、市民の命や財産を守る重要な職務を負っていますので、費用対効果とは違った基準での評価が必要だと思いました。

◆ 会派(誠友会)で、2月3日(金)～4日(土)、

姉妹都市盟約を締結した松江市を視察しました。玉造厚生年金病院の人工関節手術は、年間約400件という国内有数の実績を持ち、山陰はもとより、山陽や近畿・関東からの患者さんもいらっしゃるということで、尾道松江道の全線供用開始をにらみ、尾道からの患者さんも期待されていました。専門スタッフが手術からリハビリ、外来フォローまで一貫体制で当たり、歩けなかった人が歩いて退院できる完結型病院でした。松江市観光協会では、まちづくりの拠点としての機能を持つ松江歴史館を視察しましたが、「松江の開府」以降400年にスポットを当てたコンセプトは、隣市にある出雲市との差別化戦略を十分検討されているように思いました。中長期に亘る戦略もしっかりと練られており、また、それらを策定するための基礎データも正当性や正確性が保たれており、担当職員の方からは観光施策への情熱を感じました。



人工関節(玉造厚生年金病院)



松江歴史館から松江城を臨む

◆ 会派(誠友会)で、3月28日(水)～29日(木)、

横浜市と川崎市を行政視察しました。いずれも危機管理・防災に関する調査・研究でしたが、地震や津波に対する防災計画や既の実施している施策、また、自主防災組織における訓練マニュアルは、大変参考になりました。日頃より、正確な情報を市民に提供し、市民自らが命を守る意識を育てておくこと、災害の種類に応じた訓練マニュアルを整備することにより、自主防災組織の自発的、かつ有効な訓練が期待できるように思いました。

予算特別委員会での質問事項《抜粋》

3月12日(月)～15日(木)に開催された予算特別委員会において、柿本和彦が質問したことを抜粋してご報告します。

◆ 職員研修委託料に関して

【質問の意図(めあて)】

研修プログラムを確認し、ニーズに合った内容になっているか考察する。

【質問内容】

- “求められる職員像”を実現させるためのプログラムが実施されているか?
- 協働のまちづくりを推進していく上で、どのような研修が必要になってくると考えているか?

◆ さくらプラン3について(おのみち立志式)

【質問の意図(めあて)】

立志式の意義について考察し、全員参加での開催を検討する。

【質問内容】

- 全員が参加しない現状をどのように考えているか?
- 参加している生徒と参加していない生徒の学び・気づきをどのように評価しているか?

活動報告

(抜粋してのご報告になりますが、ご了承ください。)

- ◆ 1月 8日(日) 尾道市消防出初式に参列しました。
- ◆ 1月 8日(日) 尾道市成人式に参列しました。
- ◆ 1月24日(火) 尾道市立原田小学校PTAで講演しました。
テーマ『おのみち100km徒歩の旅～人間力と生きる力～』
- ◆ 1月28日(土) おのみち立志式に参列しました。
- ◆ 2月 7日(火) 東日本大震災被災者生活支援センター『おのみち』(広島県社会福祉協議会)に参加しました。
テーマ『被災地支援からお互いさまの地域づくりへ』
- ◆ 2月16日(木) 尾道市立向東小学校でゲストティチャートとして、『租税教室』を実施しました。
- ◆ 2月17日(金) 尾道市立向東幼稚園PTAで講演しました。
テーマ『おの100から学ぶ家庭での教育』
- ◆ 3月25日(日) 柿本和彦後援会による市政報告会を開催しました。